

善 古
本 典
展 籍

ご挨拶

大阪古典会は今年で百二十三年目を迎えます。明治三十四年に鹿田松雲堂の二代目古井翁が数人の仲間と一緒に「大阪和書会」という同人市を始めたのが発端で、大正二年に大阪古典会と改称されたようです。当時の大阪には市内四区（東区、西区、南区、北区）に幾つかの同人市が在りましたが、それ等の市会を統合して大正十三年七月二十六日に中之島中央公会堂にて発会式を行い誕生したのが「大阪古書組合」でした。以後大阪古典会も大阪古書組合に組み入れられて現在に至っていますが、去年の七月二十六日に百周年を迎え、今年の一月三十日に同じ場所でも百周年記念祝賀会を開催しました。お昼の第一部には大阪の島之内出身の橋爪節也先生をお迎えして、数年前に新装改築され更に重厚さを増した中之島中央公会堂にて公演会を催しました。丁度古書組合が誕生した大正十四年頃の大阪が特に「大大阪」と呼ばれていた時代のお話を中心に、まるで落語家が語るような大阪弁での口調に会場の我々はすっかり引き込まれてしまい、二時間近くに及んだ時が一瞬にして過ぎ去ってしまう程楽しいお話を聞かせて頂きました。二部の祝賀夕食会には全古書連の夏目理事長はじめ各県の古書組合の理事関係者や、神田の一誠堂さんほか東京・京都古典会の関係者の方々もご来会され、中でも特に日本で一番古い歴史を持つ朝倉屋書店さんと、二番目に古い佐々木竹苞楼さんに来て頂きました事は、現在大阪古書組合の理事長を仰せつかつている私にとりましては大変有難く喜ばしい事でした。また江戸時代の享保年頃から三都の本屋が新刊を出すたびにその成功を祈願して一部を奉納したという住吉大社さんからも参加して頂きました。現在住吉神社にはこれら江戸時代に奉納された書物が殆ど全部無事に残っていて、特に「御文庫」と称される古典籍の図書館にもなっているようです。余興に国立文楽劇場から呂勢太夫さんほか人形使いの皆さん七名をお迎えして二十分余りの文楽実地公演がありました。狭い上に大きな柱がある会場での特設劇場にも拘らず一同堪能させて頂きました。一部、二部に参会されました多数の皆様のお陰を持ちまして大阪古書組合の百周年記念祝賀会は滞りなく終了して誠に有意義な一時になりました。この紙面をお借りして古典籍を愛する皆様方にもご報告させて頂いた次第です。

百周年の祝賀会の方は一年位の準備期間で無事終了する事が出来ましたが、もう一つの企画『大阪古書組合百年史』の刊行の方は三年前から理事会で企画され、二年半前より二十人の編集委員を選んで百年史刊行の事業が動き始めました。幸運にも大阪古書組合には大正十三年七月の誕生の後に発刊された『大阪古書組合月報』が第一号より現在に至るまで殆ど全部揃っていましたので百年史の資料として大変役立つ事と、父中尾堅一郎が古典会会長

の時に編集した『大阪古典会小史』や平成十六年に古書組合が出した『大阪府古書籍商業協同組合創立八十周年記念誌』なども大変参考になったことでしょう。四年前に出版された『東京古書組合百年史』を目標に編集委員の懸命の努力によって百周年祝賀会の丁度一週間前に夢のように完成しました。さっそく百周年祝賀会にご参加頂いた皆様には一部贈呈して初公開致しましたが、一般には二月一日より税込八千円で販売を始めております。全七四七頁に及ぶ本書には江戸時代から続く鹿田松雲堂や戦前の大阪に於ける古書店の有様をよく紹介していますし、戦後の大阪の古書店や組合市会などの有様も多く記載されています。また現大阪古書組合の理事長である私も七十五歳の後期高齢者に達し古本屋人生も五十年を過ぎましたので、僭越ながら百周年特別寄稿として一文を草し、富岡鉄斎文庫の二回の売立の事や、当時中学生だった中尾堅一郎が鹿田松雲堂（鉄斎文庫売立の札元の一人）出身の父熊太郎に言われて鉄斎蔵書中で蔵書印の無かった本に蔵書印を押した、という裏話なども紹介させて頂きました。同時に現在私が所持しております『北斎漫画 全』（袋付初印本）を浮世絵師英泉の研究者だった今中宏氏（『英仙著画作目録』著、氏の蒐集版画及び絵本・合巻本は現在千葉市美術館の所蔵）より譲り受けた次第や、半洲散人なる人物の序文について氏自らが昭和四十年代に解読した中に三ヶ所ほど違和感を感じる語句を見つけましたので、例によって前名古屋大学文学部教授の塩村耕先生にご相談しましたら早速先生から、多分こう読むのだろうと思います、という事で正しい読みに加えて半洲散人の経歴もご教示頂きました。語句が読めても真にこの序文の意味を理解するのは何時の事になるやら分かりませんが、序文の最後に「：如夫題するに漫画を以てせるは翁のみづからいへるなり」と書かれている一節を発見したことは「漫画」と言う語の語源をこの一節に見たようで、私なりに非常に嬉しく思っているのであります。

今年もまた大阪古典会の下見展観市の時がやってきました。今年は五月の第五週の開催となりますが、全国の多くの古典籍愛好家の皆様のご来場を心よりお待ちしております。また下見会場にて五月三十日（金）三十一日（土）の両日『大阪古書組合百年史』の販売も計画しておりますので、どうぞ貴蔵書にこの一冊を加えられんことを切に希望する次第でございます。

令和七年四月十九日早朝

大阪古典会会長 中尾隆夫

大阪古典会創立百二十三周年記念

古典籍展観入札会

展 観

五月三十日（金）午後三時より午後七時まで

五月三十一日（土）午前十時より午後六時まで

入 札 六月一日（日）午前十時廻し開始（開場 午前九時）

（全古書連加盟業者のみで行います）

会 場 大阪古書会館

大阪市中央区粉川町四一

TEL（〇六）六七六七―八三八〇

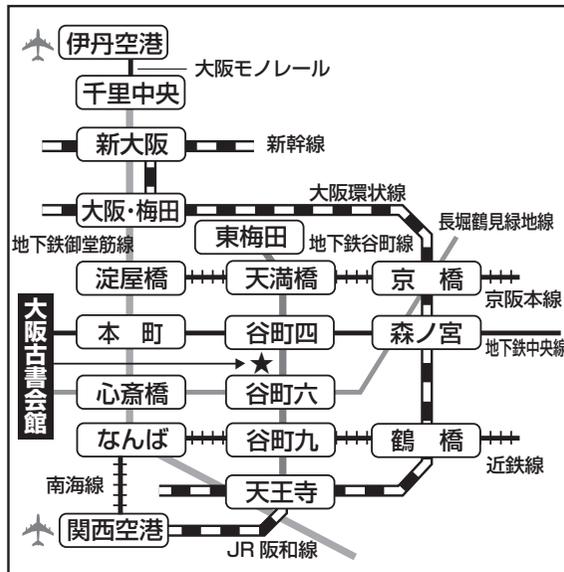
取引規定 一点 五万円以上

但し 額・幅物・屏風は一〇万円以上

○入札は全古書連加盟業者が行います。ご希望の品がございましたら、ご懇意の書店へご注文下さい。
なお落札の際は、落札の価格に加え若干の手数料を頂戴いたします。

○会場内への筆記用具以外のお手荷物の持込はご遠慮下さい。

[会場の御案内]



大阪古書会館

大阪市中央区粉川町 4-1 TEL: 06-6767-8380

○交通のご案内

- 地下鉄谷町線 / 中央線 谷町4丁目駅⑧番出口
- 地下鉄谷町線 / 長堀鶴見緑地線 谷町6丁目駅⑤⑥②番出口
- 地下鉄長堀鶴見緑地線 松屋町駅⑤番出口
- 阪神高速道路 法円坂出入口
- タクシー 内久宝寺町三丁目交差点南入